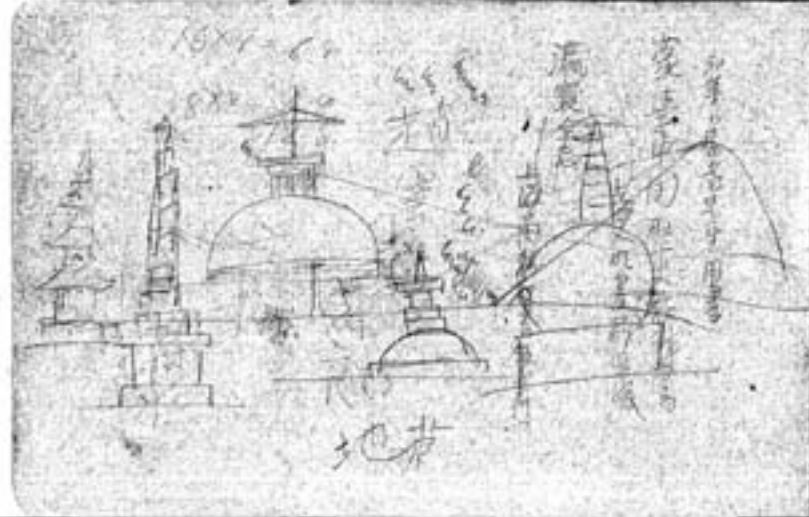


清國滿洲

第十四卷

中



大菩薩
 陶原行
 金海子下車
 水封中佐、軍医署



○目次

五	五	五	十	八	七	六	五	四	三	二	一
五	五	五	十	八	七	六	五	四	三	二	一
五	五	五	十	八	七	六	五	四	三	二	一
五	五	五	十	八	七	六	五	四	三	二	一

明治二十九年

海城東内所の陳代壁り下部の獅子窓の彫刻
等あり唐的後者西域の思匠あり。
復た十二重の塔より座す太宗高麗の後
七人の尉もる為には作るといふ。
能志岳に高麗墳あり。

孫家宅に高麗城跡あり陳代造なり
宛と唐の碑瓦造り高麗城の遺跡あり。
全相社十二重の塔に唐瓦の下層の壁文高麗あり。
金明寺に西に二里石火窟あり仏像の彫出せり。

瀋州に於ける画像
回教の傳來すうて瀋州より千手千眼の佛あり。
十八唐以来の佛に在りては之に千手千眼の佛あり。
注する所、開動楚塔、(註文の如く)千手千
眼の佛あり十八日餘りて被く瀋州へ清令觀て又五
三觀視るべきなり。

參謀本部編纂課編輯
瀋州地誌 全

明治二十七年十一月二十日印刷 定價五十文
發行所 博文館
共益社
共益社



○興京
北緯四十一度四十三分東經百二十四度五十分
清國始祖創者此なり城八層四瓦子丁ア
又城ノ西方ニ八丁ニシテ清水祖ノ陵アリ
永陵ト云フコト村人口凡六十ナリ

○開原
北緯四十二度四十分東經百二十四度八分
城八層四二里餘壁ノ高サ三丈五尺四面各
一門ヲ開ク城中ノ山崩厲ニ八角塔アリ又四面
ニ仏像ヲ安置ス又高瓦十五丈唐代建築
ニ類スナリ
按スレニ唐代ノ地ノ塔ヲ作ル丁者ノ得ルハ
ラズ或ハ渤海時代ニ屬スルモノナリ

—
Keoung's Pictorial Memoir
by Francis H. Nielsen.
London 1902.

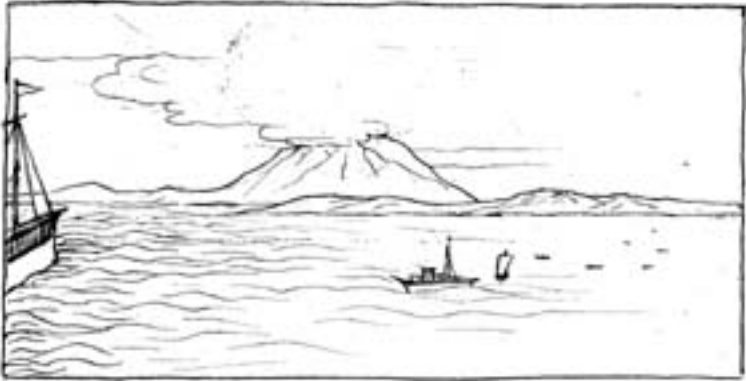
Mount Omi
a legend.
by J. J. Little F. R. G. S.
London 1901.

Queen's Dutch Clays
from H. von Mevius.
Leipzig 1884.

コト書ニ興京ノ地ヲ北緯四十二度五十分東經百二十四度五十分ニシテ渤海國ノ地ナリ又

7

天知山



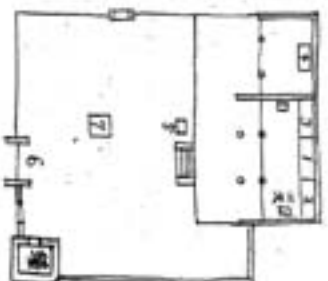
唱戲。此等仔，樂器，笛，笛，用。



大建，戲場

說明此 plane: 新國大 Chinese
 45° 用 4 種新, 18 只, 19 只, 20 只
 10% 種, 20% 種, 30% 種, 40% 種
 以上種的成, 100% 成

大建, 戲場
 1877, 1878, 1879, 1880, 1881, 1882,
 1883, 1884, 1885, 1886, 1887, 1888,
 1889, 1890, 1891, 1892, 1893, 1894,
 1895, 1896, 1897, 1898, 1899, 1900



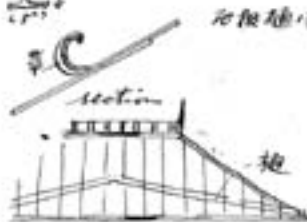
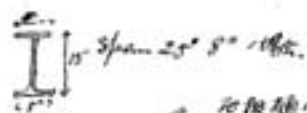
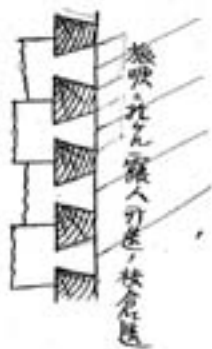
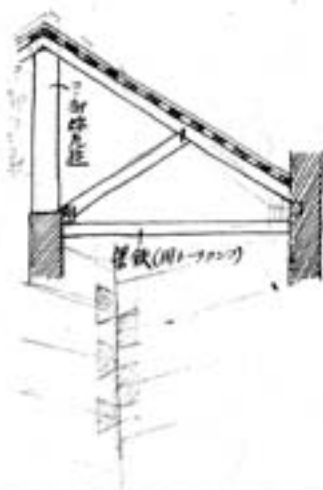
- 1- 拝堂 (Prayer hall)
- 2- 佛堂 (Buddhist hall)
- 3- 佛具室 (Buddhist utensils room)
- 4- 天竺堂 (Indic hall)
- 5- 碑 (Stele)
- 6- 門 (Gate)
- 7- 塔 (Pagoda)

此一院係二十一年建立成豐八年重修
 上通于龍王山成豐寺和龍王山寺
 殿前二門外有塔、門位、鐘塔等處



10
 米

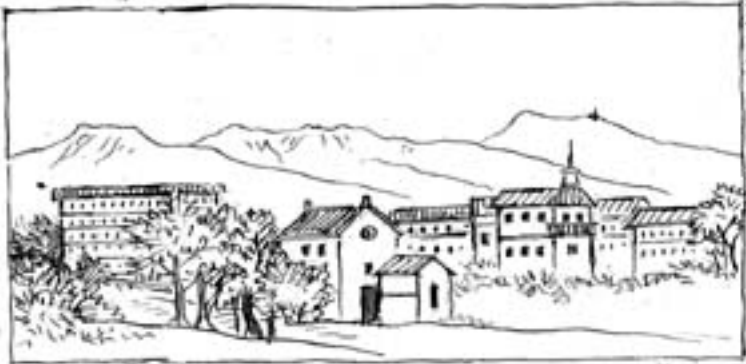
11



15° span 25° 5° 1900

○ 換吸新物
 減法後日 屋下壁干板器瓦工取
 毒湯分奇 其地並取
 煉瓦管 製油管
 製水配 形

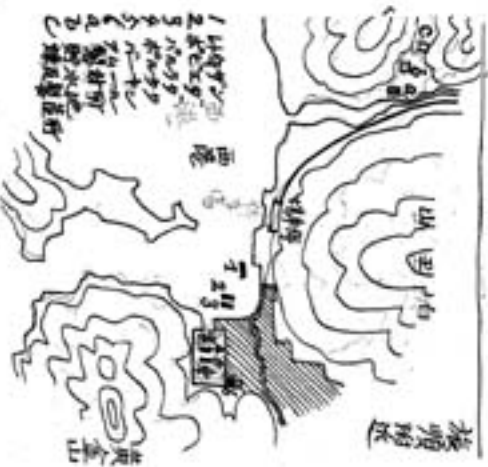
上等	換吸新物
中等	五月
下等	三月
上等	一、二月
中等	三月
下等	五月



裁判目次

1. 石巻地帯 (石巻 Hill Country) 1
 2. 山田地帯 (山田 Hill Country) 2
 3. 山田地帯 (山田 Hill Country) 2
 4. 山田地帯 (山田 Hill Country) 2
 5. 山田地帯 (山田 Hill Country) 2
 6. 山田地帯 (山田 Hill Country) 2
 7. 山田地帯 (山田 Hill Country) 2
 8. 山田地帯 (山田 Hill Country) 2
 9. 山田地帯 (山田 Hill Country) 2
 10. 山田地帯 (山田 Hill Country) 2

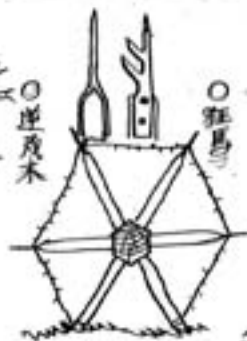
旅順附近



1. 山田地帯
2. 山田地帯
3. 山田地帯
4. 山田地帯
5. 山田地帯
6. 山田地帯
7. 山田地帯
8. 山田地帯
9. 山田地帯
10. 山田地帯



○逆茂木



○狂馬



○鉄線網



五列又三列

女子の生活



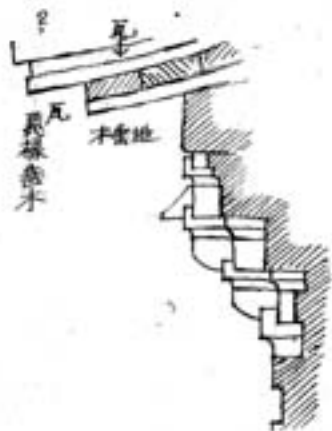
17

南の山向

大和山

南園





○遼陽州
 城、西、白塔寺の塔、了、傳へて、唐代に創立云々
 八南十二重、下、成、塔、和、香、各、面、二、三、上、均、似、
 天、宮、寺、宇、堂、上、初、層、八、軒、二、層、九、堂、一、
 二、重、塔、堂、上、軒、八、軒、三、層、上、相、輪、亦、久、

Ташкент = Tashkent = 塔什干
 = Xinoyang = 新陽

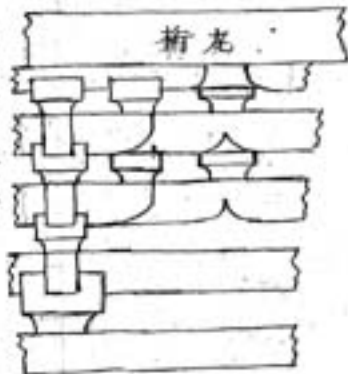
山南の岸実



樓臺の南



下層材横三層入二層尤ツ組・隅丸柱
大手子多サ所来

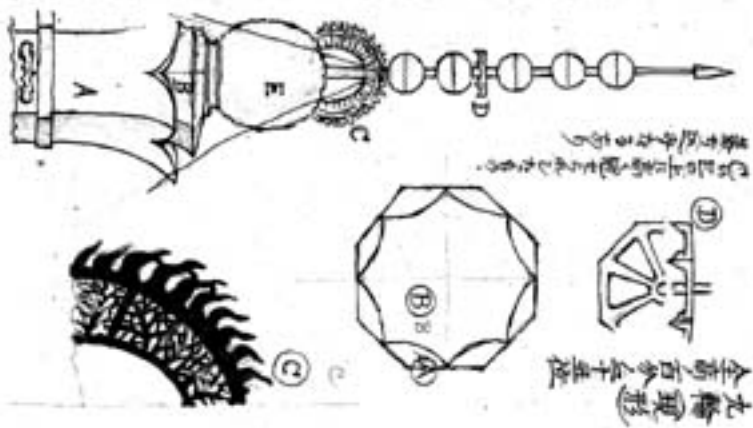


三重以上軒モノ等シテ

瓦正箇



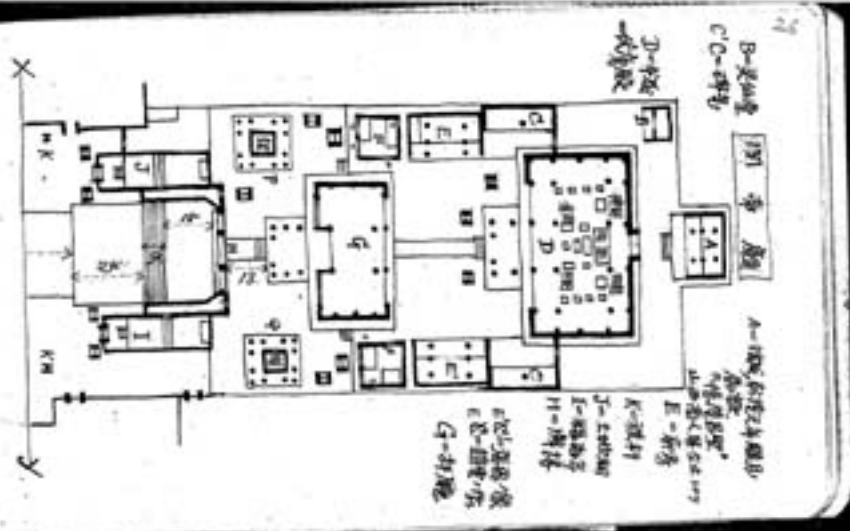
隅丸
木柱突出ツテ
瓦舞イカク



此は正箇に輪を付して
幾分長さを少り

大輪現形
全高百八寸五寸



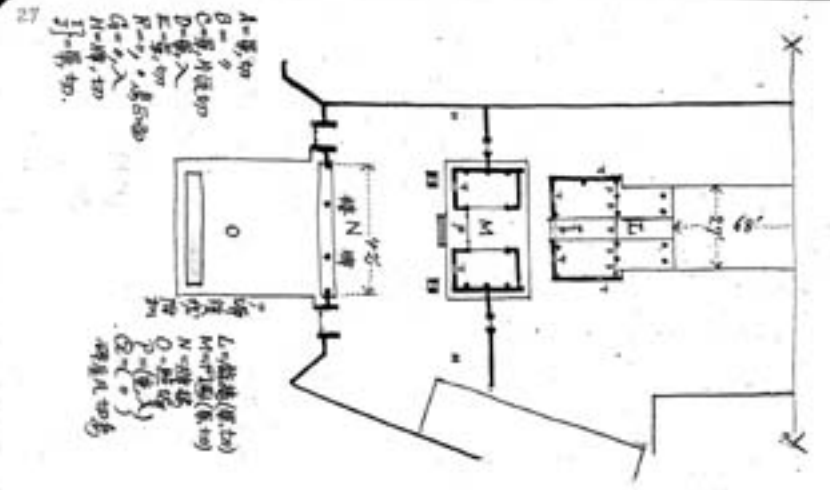


B-梁
C-C-梁

191 寺 廟

A-100% 柱

柱
梁
E-梁
F-梁
G-梁
H-梁
I-梁
J-梁
K-梁
L-梁
M-梁
N-梁
O-梁
P-梁
Q-梁
R-梁
S-梁
T-梁
U-梁
V-梁
W-梁
X-梁
Y-梁
Z-梁



A-梁
B-梁
C-梁
D-梁
E-梁
F-梁
G-梁
H-梁
I-梁
J-梁
K-梁
L-梁
M-梁
N-梁
O-梁
P-梁
Q-梁
R-梁
S-梁
T-梁
U-梁
V-梁
W-梁
X-梁
Y-梁
Z-梁

L-梁
M-梁
N-梁
O-梁
P-梁
Q-梁
R-梁
S-梁
T-梁
U-梁
V-梁
W-梁
X-梁
Y-梁
Z-梁

形西載塔寺自層路に變化下散原と示す也



〇此の塔の構造は、上層と下層とを別々に造り、
 それを積上げて作られたものである。各層の柱は、
 外側にあり、内側には柱がなく、中心には空
 心である。これは、当時の建築技術の進歩を示し、
 塔の内部空間を広く確保しようとした結果であ
 る。また、塔の基礎は、石で築かれた堅固な基
 礎石の上に建てられており、これは、地震や火災
 に強い構造を示している。

〇この塔の内部構造は、上層と下層とを別々に
 造り、それを積上げて作られたものである。各層
 の柱は、外側にあり、内側には柱がなく、中心
 には空心である。これは、当時の建築技術の進
 歩を示し、塔の内部空間を広く確保しようとし
 た結果である。また、塔の基礎は、石で築かれ
 た堅固な基礎石の上に建てられており、これは、
 地震や火災に強い構造を示している。

〇この塔の内部構造は、上層と下層とを別々に
 造り、それを積上げて作られたものである。各層
 の柱は、外側にあり、内側には柱がなく、中心
 には空心である。これは、当時の建築技術の進
 歩を示し、塔の内部空間を広く確保しようとし
 た結果である。また、塔の基礎は、石で築かれ
 た堅固な基礎石の上に建てられており、これは、
 地震や火災に強い構造を示している。

〇この塔の内部構造は、上層と下層とを別々に
 造り、それを積上げて作られたものである。各層
 の柱は、外側にあり、内側には柱がなく、中心
 には空心である。これは、当時の建築技術の進
 歩を示し、塔の内部空間を広く確保しようとし
 た結果である。また、塔の基礎は、石で築かれ
 た堅固な基礎石の上に建てられており、これは、
 地震や火災に強い構造を示している。

白塔寺の塔

上層の鏡よ

闕棟

軒先瓦



唐草瓦の普通な形式より大
上廻りの如き形にて我々の維新
時代にはその似たる点に留意す
べきなり

31

白塔寺の塔
上層の鏡よ
軒先瓦
闕棟

(1) 塔の形は、唐草瓦の普通な形式より大上廻りの如き形にて我々の維新時代に於ては其の似たる点に留意すべきなり

(2) 塔の形は、唐草瓦の普通な形式より大上廻りの如き形にて我々の維新時代に於ては其の似たる点に留意すべきなり

(3) 塔の形は、唐草瓦の普通な形式より大上廻りの如き形にて我々の維新時代に於ては其の似たる点に留意すべきなり

(4) 塔の形は、唐草瓦の普通な形式より大上廻りの如き形にて我々の維新時代に於ては其の似たる点に留意すべきなり

(5) 塔の形は、唐草瓦の普通な形式より大上廻りの如き形にて我々の維新時代に於ては其の似たる点に留意すべきなり

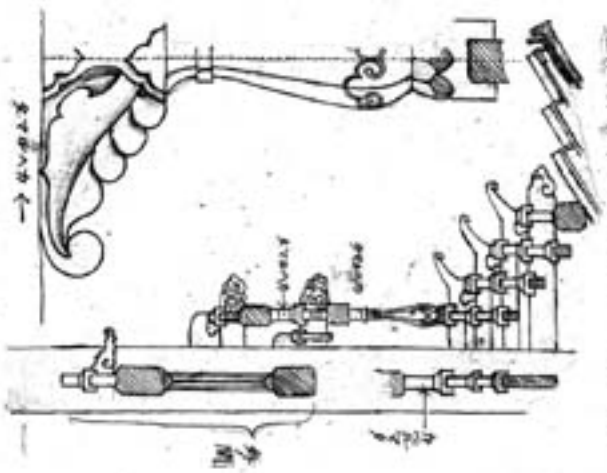
(6) 塔の形は、唐草瓦の普通な形式より大上廻りの如き形にて我々の維新時代に於ては其の似たる点に留意すべきなり

(7) 塔の形は、唐草瓦の普通な形式より大上廻りの如き形にて我々の維新時代に於ては其の似たる点に留意すべきなり

(8) 塔の形は、唐草瓦の普通な形式より大上廻りの如き形にて我々の維新時代に於ては其の似たる点に留意すべきなり

(9) 塔の形は、唐草瓦の普通な形式より大上廻りの如き形にて我々の維新時代に於ては其の似たる点に留意すべきなり

(10) 塔の形は、唐草瓦の普通な形式より大上廻りの如き形にて我々の維新時代に於ては其の似たる点に留意すべきなり



此の如きものは、
 各種の動力を伝へ、
 各種の動作を行はすに
 用ゐる。N. 1. 2. 3. 4. 5.
 等は大抵の通り、
 各種の動力を伝へ、
 各種の動作を行はすに
 用ゐる。

○此の如きものは、
 各種の動力を伝へ、
 各種の動作を行はすに
 用ゐる。N. 1. 2. 3. 4. 5.
 等は大抵の通り、
 各種の動力を伝へ、
 各種の動作を行はすに
 用ゐる。

○此の如きものは、
 各種の動力を伝へ、
 各種の動作を行はすに
 用ゐる。N. 1. 2. 3. 4. 5.
 等は大抵の通り、
 各種の動力を伝へ、
 各種の動作を行はすに
 用ゐる。

○此の如きものは、
 各種の動力を伝へ、
 各種の動作を行はすに
 用ゐる。N. 1. 2. 3. 4. 5.
 等は大抵の通り、
 各種の動力を伝へ、
 各種の動作を行はすに
 用ゐる。



奉天女子

芳年歌

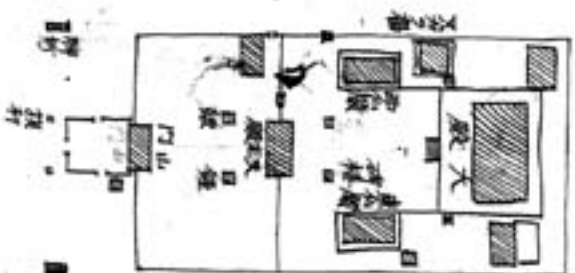


(大分老瑞神の塔)

Lamkand (塔名)

塔名 瑞神の塔
 高 約 20 丈
 塔身 磚造
 塔頂 銅製
 塔基 石造
 塔門 木造
 塔前 水池
 塔後 竹林
 塔側 石階
 塔下 石砌
 塔上 石砌
 塔中 石砌
 塔外 石砌
 塔內 石砌
 塔底 石砌
 塔頂 銅製
 塔身 磚造
 塔基 石造
 塔門 木造
 塔前 水池
 塔後 竹林
 塔側 石階
 塔下 石砌
 塔上 石砌
 塔中 石砌
 塔外 石砌
 塔內 石砌
 塔底 石砌





○ 俄國蘇

△ 文神廟

在俄國三千里廟老七本朝朱德八年動賜銀兩

在俄國內閣及廟宇亦有海龍夫朝朱德八年動賜銀兩

寺亦有海龍夫朝朱德八年動賜銀兩

在俄國蘇州山前古塔本朝朱德八年動賜銀兩

重傷

△ 永安寺

在俄國南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 廣安寺

在俄國東南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 大安寺

在俄國東南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 延壽寺

在俄國西王七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 延壽寺

在俄國南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 廣安寺

在俄國南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 永安寺

在俄國南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 大安寺

在俄國南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 延壽寺

在俄國南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 永安寺

在俄國南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

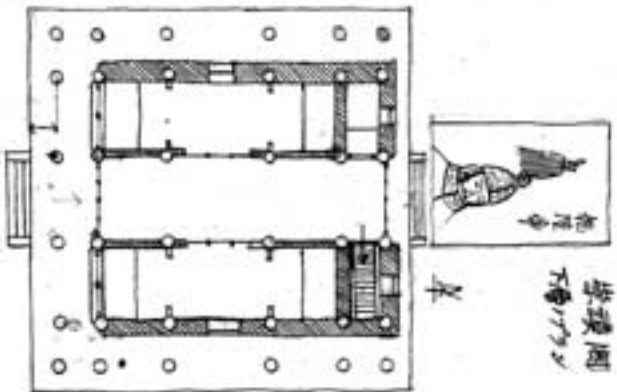
△ 大安寺

在俄國南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 延壽寺

在俄國南七千里本朝朱德八年動賜銀兩

△ 永安寺



ТБЕЛИСЬ - Тифлис - 铁堡
- Kas-pian - 黑海

阿原集系

鐵城 大不國

人口及第一番多、年中遊樂者多、
四層樓、高十五、十八、廿一、四、四、四、四、
各七、五、四、五、五、五、五、五、
各地英國、法、德、俄、美、日、
鐵城、大不國、四方門、
北、東、南、西、



○重修石塔寺記
 開元三年自唐使元時深埋天師子建
 塔寺碑也至大正二年復建石塔寺大殿
 乃更名曰石塔寺古名各以聯名自開元
 已後八重修矣
 開元十七年
 ○開元重修石塔寺碑
 開元有北山聖名曰石塔寺
 著其聖名身寺建元開元復建塔寺
 三上之碑也自開元以來甲寅修宜德
 寺中
 天德四年



莊嚴王



○塔の記載
 塔とは今も昔も其の形を變へず、
 今も昔も其の形を變へず、
 味も階級の極限を有するものなり。

○塔の構造
 塔の構造は、塔心柱、塔心柱、
 塔心柱、塔心柱、塔心柱、
 塔心柱、塔心柱、塔心柱、

○塔の材料
 塔の材料は、塔心柱、塔心柱、
 塔心柱、塔心柱、塔心柱、
 塔心柱、塔心柱、塔心柱、



○塔の材料
 塔の材料は、塔心柱、塔心柱、
 塔心柱、塔心柱、塔心柱、
 塔心柱、塔心柱、塔心柱、

○相輪

今塔の相輪は、大佛の塔、
 今塔の相輪は、大佛の塔、
 今塔の相輪は、大佛の塔、

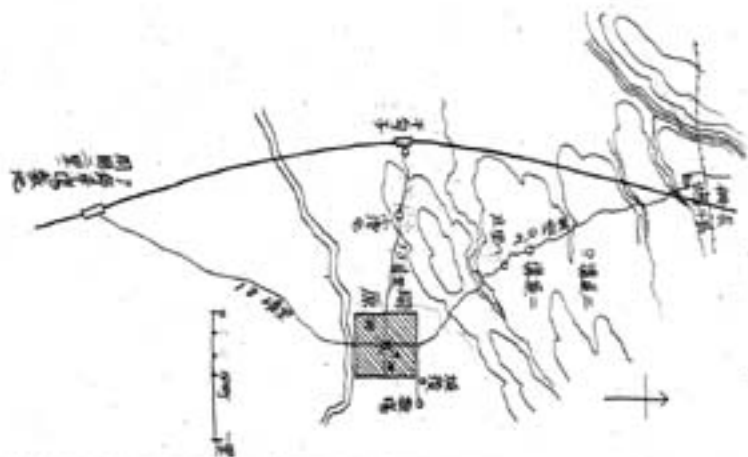


今塔の相輪は、大佛の塔、
 今塔の相輪は、大佛の塔、
 今塔の相輪は、大佛の塔、

同慶寺街上ノ小石塔



現今、高約十尺、
 現今、高約十尺、
 現今、高約十尺、



清張守之僧

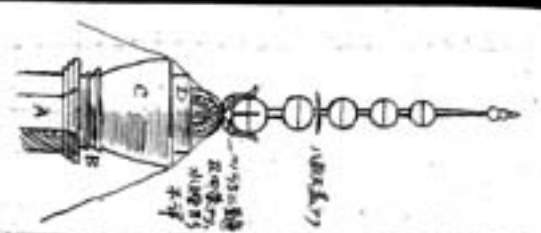
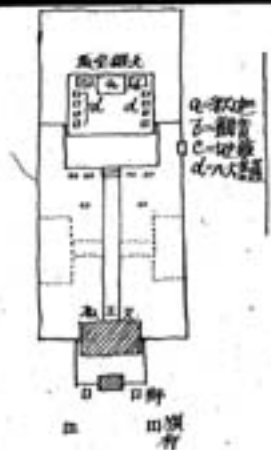


阿波佐佐

御堂下中ノ女形

○銀別當丹邊寺記
 伏見如意門山下... 此寺... 延寶... 萬曆... 千八百... 萬曆二十二年歲次乙未

○銀別當丹邊寺記
 同和武二十二年... 此寺... 延寶... 萬曆... 千八百... 萬曆二十二年歲次乙未

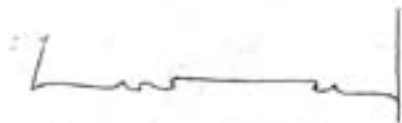
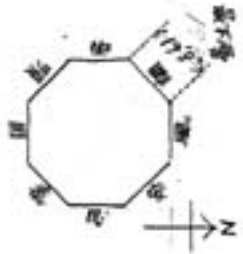


上圖... 万曆二十二年... 延寶... 千八百... 萬曆二十二年歲次乙未

○ 延
 八... 延... 萬曆二十二年... 延寶... 千八百... 萬曆二十二年歲次乙未

○ 延
 八... 延... 萬曆二十二年... 延寶... 千八百... 萬曆二十二年歲次乙未

63



62



欽機ノ女子

65

A=三清殿
東=一丈
南=一丈
西=一丈
北=一丈
中=二清殿
大=三清殿



慈清寺平面図

○補修経曆記

慈清寺は有徳寺に改稱し自時時修葺あり...
大正九年夏八月落成



毘盧真佛の印相

○慈清寺

○北堂...
八面如鏡...
下堂...
大像...
大正九年夏八月落成

天願ノレン



- 大=三清殿
- 東=一丈
- 南=一丈
- 西=一丈
- 北=一丈
- 中=二清殿
- 大=三清殿

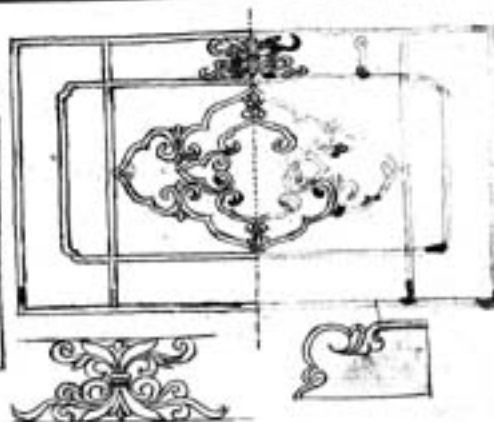
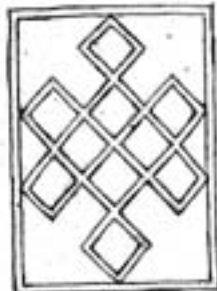
○慈清寺...
山名...
相傳...
慈清寺...
大正九年夏八月落成

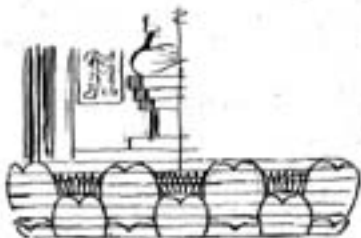
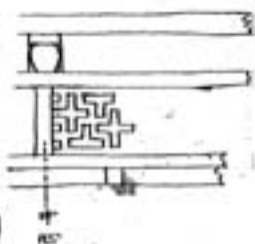


○相輪
原形不詳今三環より頂上を塔頂と見
成致す五層より上は手可致



○南塔
傳不詳六角九重
○其の基はアトシテ二層ありてその上は塔身なり
○上層は八角形なり下層は六角形なり
○上層の塔身は二層ありてその上は塔頂なり
○中央の塔身は上層の塔身より上へ出でて北面
に上りて天の輪なり北塔なり
○塔身は八角形なり下層は六角形なり
○二層は新築なり
○是れ塔の南面なり
○塔の北側にあり





金襴敷



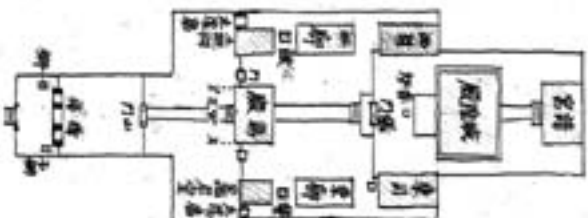
清和建築字性知
 足利 1242
 大徳寺 佛殿 佛殿
 東山 1242
 園政 589-92

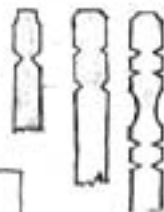
大徳寺 佛殿 佛殿
 東山 1242
 園政 589-92



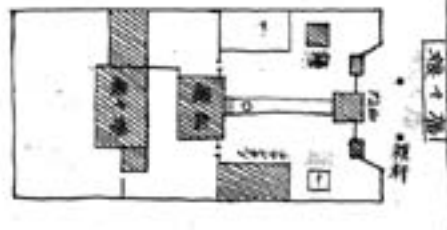
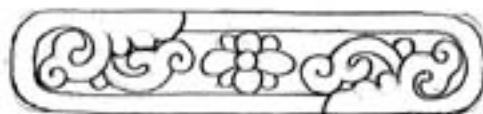
白紙十草

城門廻廊





神鏡、御鏡



建築形式別、鏡台足等ノ
 位置ハ水鏡鏡台ノ如ク
 鏡台底ハ土中ノ土中ノ像アリ

○奉天

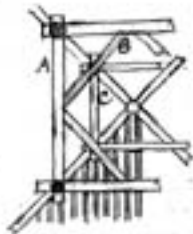
○銀閣書院

龍潭寺九年、寺ヲ改テ其創立ノ元トシ、其心ヲ
 其ノ以テ普徳寺、龍人ノ如シ

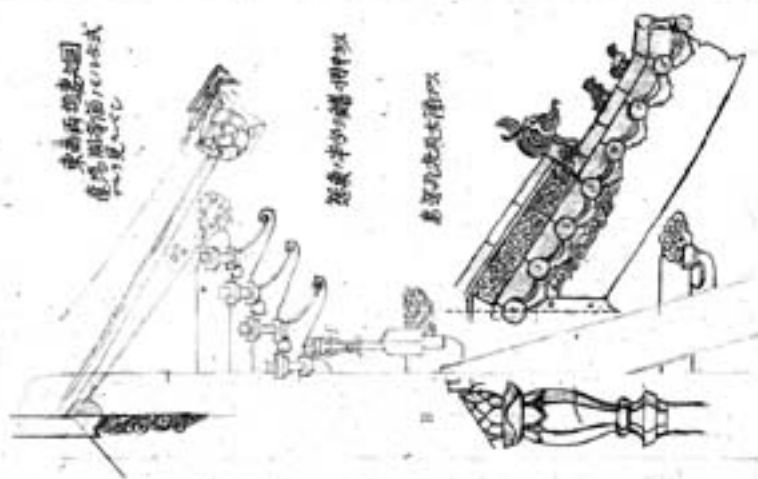


左右ノ壁柱ノ自習堂トテ生徒ノ立
 百六十間ト云フ

Ca. XVIII NTAN = Model. Dic. = No. 20



○ 懸桁
 西暦上、古くは、大木、椽、(青地、黄) 等、
 長、短、月、屋、根、四、通、貫、其、
 ○ 左右
 五、間、棟、梁、四、角、單、層、
 ○ 棟、梁、房、
 五、間、棟、梁、房、南、西、角、北、角、南、角、北、角、
 ○ 西、角、房、
 五、間、棟、梁、房、南、西、角、北、角、南、角、北、角、
 ○ 東、西、角、房、
 五、間、棟、梁、房、南、西、角、北、角、南、角、北、角、
 中、後、見、
 由、御、大、行、し、り、列、ハ、左、ハ、右、
 上、重、ノ、鈴、ノ、重、
 カ、B、上、C、ト、ノ、間、ハ、概、
 略、ノ、化、粧、屋、根、衰

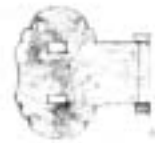




唐文家
二五原典ノ科ノ置
附以



二五原典ノ
科ノ置
附以



新成山四葉ヲ大身一様也



器(酒器)



器(酒器)



器



瓶 鐘 五 鼎



古形の五足
の鐘金は四足
有り

瓶 匜 解 瓶



15



四角の器

16



取手は今日ノ
上カクシ
五ノ如ク
アリ

蟬 鐘 罐

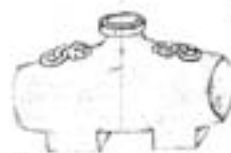


盆 (常盤) (婦人粧用是)

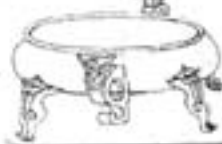
ノリ物に浅く種合アリ
蓋アリ

櫃 鐘

缶



盆



鳳首銀斗

香炉
三日月
形
銀斗



39

盃

收る茶如
牛物ニ足
アハナリ



動物ノ形
取入現物
物ニモナリ



鏡



扇



金



盃



耳ノ
ニナリ



耳ノ
ニナリ

盃洗

折鈴 (調)



漢舞鏡



21



壺(口角と腹を)



壺(口角と耳を)



瓶



瓶

肩一年アムアムアムアムアムアム



卮



水盂

丹耳

73

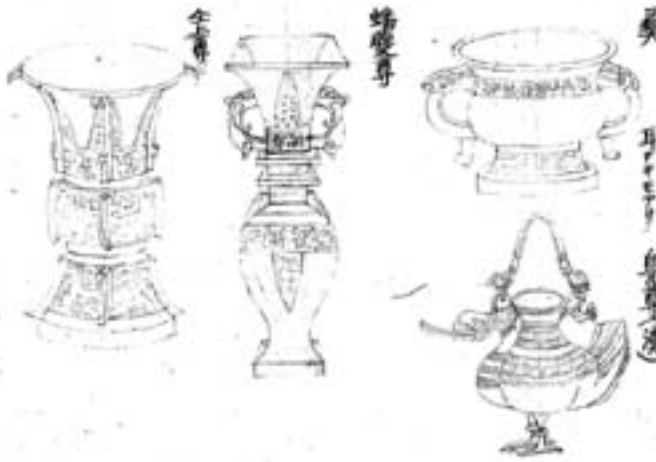


清浄器

養尊

○清浄器の
相、上部
引、相、
A、
二、
三、

72



全尊

清浄器

養

耳、
三、
尊、

91

漢地歌德初盤 (一)



(二)

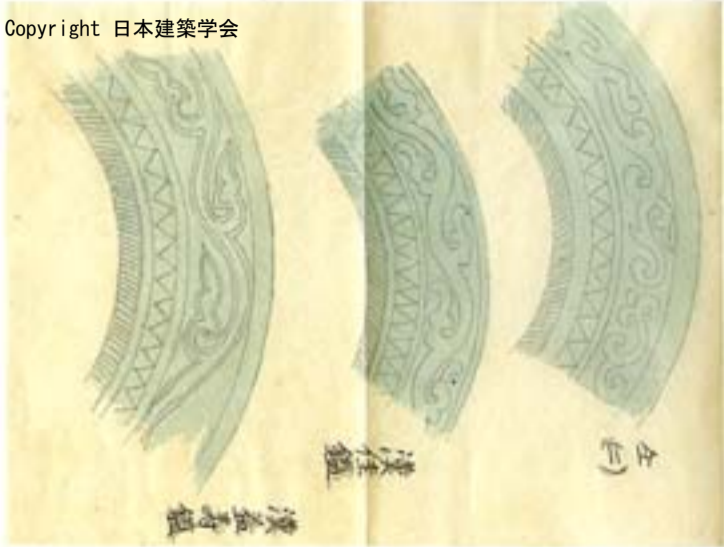
92

東漢(圖)



東漢(圖)





漢熊首鐵



漢伎鐵



漢雷鼓柱頭



瑞獸身蓋(唐)



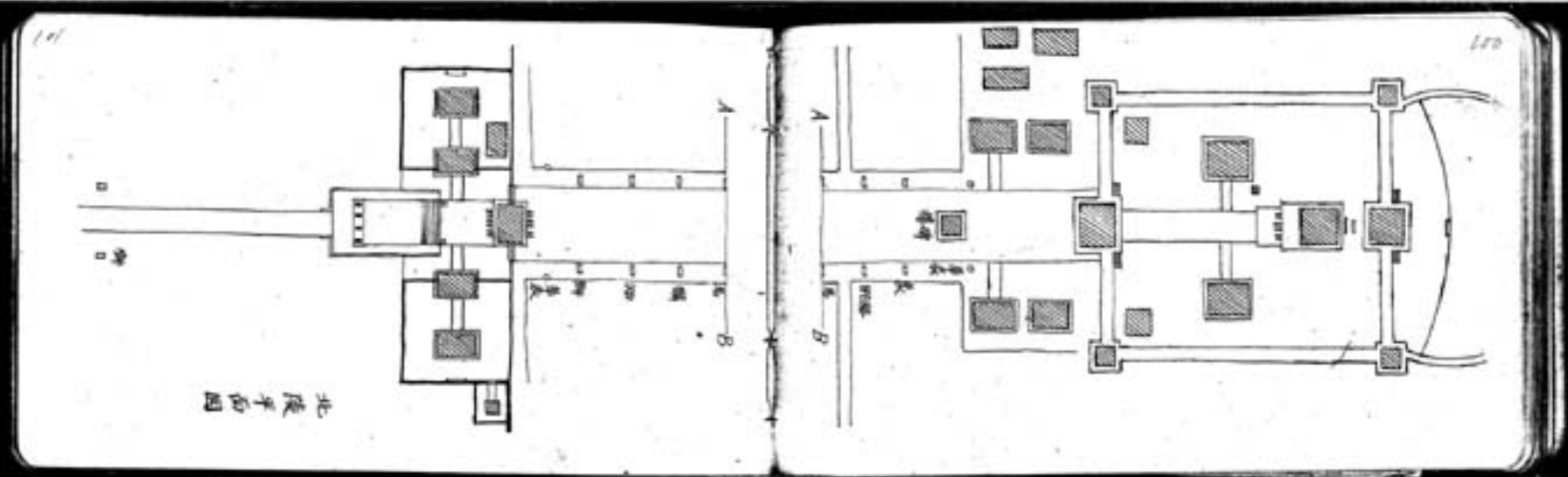
博山爐(漢)



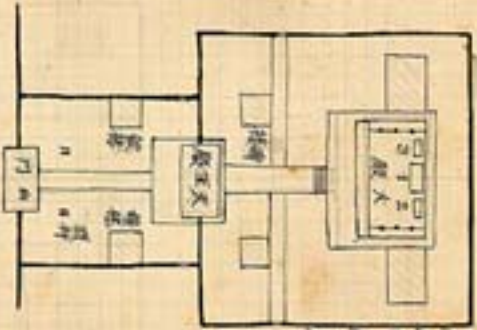
提鑊(唐)

全上





復園法輪寺(北塔)



- 0) 天塔殿
- (1) 本塔
- (2) 本堂
- (3) 佛龕
- (4) 佛
- (5) 佛龕
- (6) 佛

(明) 洪武年，增建佛殿，佛殿二層，殿內供奉釋迦牟尼佛，但佛身已不見，僅存佛座，佛座亦不見，僅存佛座。佛座亦不見，僅存佛座。佛座亦不見，僅存佛座。

二、法輪寺，Standing of the classic style, the temple is built in the late Ming Dynasty, the temple is built in the late Ming Dynasty, the temple is built in the late Ming Dynasty.

西天降生... 月... 之... 世界...



法輪寺(本尊天母像)

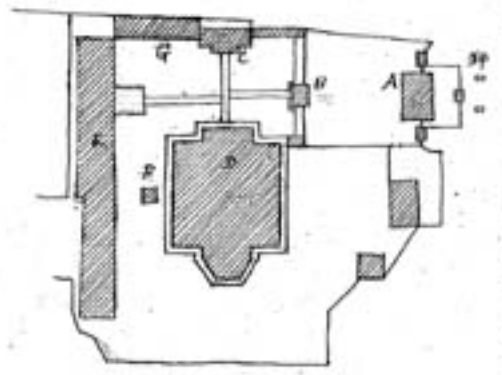
この本は明式を法眼貫ててし蓋し經本清
却違等ノ好標品ナリ

○黄寺

黄寺清王宮賜寺神祀
崇德元年經工公三第法成
本寺所存不明 天相製カシキ重ニ用テテ終今ノ
其大寺所存不明 此北也ハ段 神漢紀卷第拾四ノ
轉シ本寺ノ廟ヲ經眼ニシテ之ヲ今ノ宮ニ奉祀
シテ其地ヲ建ツル云々
巴里ノ地ニ在リテ之ヲ佛學ノ人々ハ華ハ北宮
ト稱シ



北清真寺

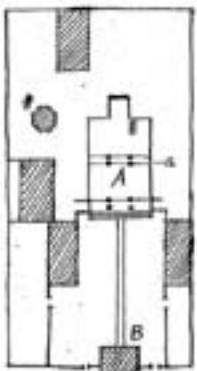


A=寺門
B=中門
C=殿
D=木殿
E=佛堂
F=佛堂
G=佛堂
H=佛堂
I=佛堂
J=佛堂
K=佛堂
L=佛堂
M=佛堂
N=佛堂
O=佛堂
P=佛堂
Q=佛堂

50
此寺(明)王宮賜寺神祀
崇德元年經工公三第法成
本寺所存不明 天相製カシキ重ニ用テテ終今ノ
其大寺所存不明 此北也ハ段 神漢紀卷第拾四ノ
轉シ本寺ノ廟ヲ經眼ニシテ之ヲ今ノ宮ニ奉祀
シテ其地ヲ建ツル云々
巴里ノ地ニ在リテ之ヲ佛學ノ人々ハ華ハ北宮
ト稱シ



東清興寺ノ入口ノ門ノ詳細ノ
 図ヲ示スルニ其ノ形ノ
 雄々シクハ余リノ
 門ノ形ノ
 雄々シクハ余リノ



東清興寺

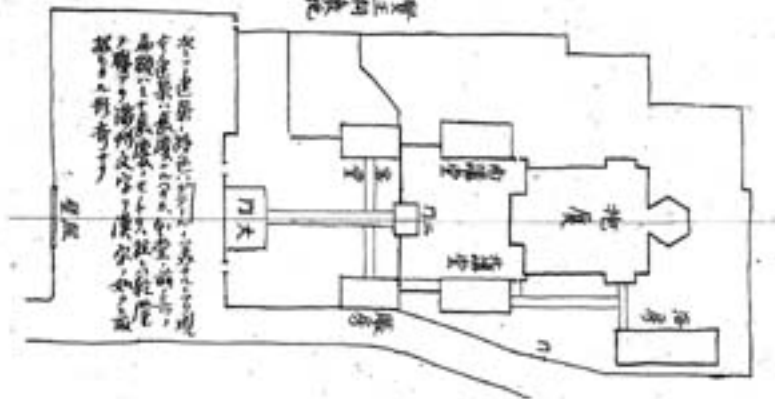
雙新面

此ノ門ノ形ノ
 雄々シクハ余リノ
 門ノ形ノ
 雄々シクハ余リノ
 門ノ形ノ
 雄々シクハ余リノ



109

皇正朝本祀



此正朝本祀... (Handwritten notes describing the shrine's history and construction details.)

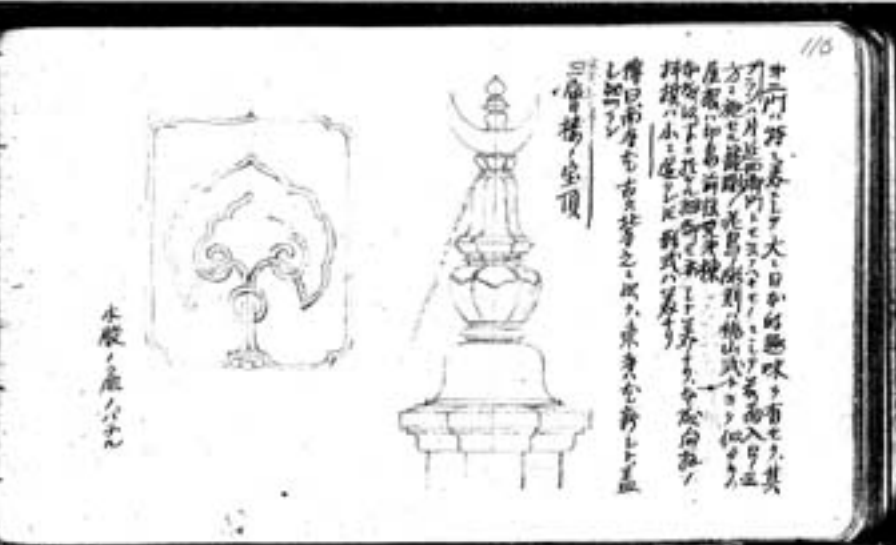
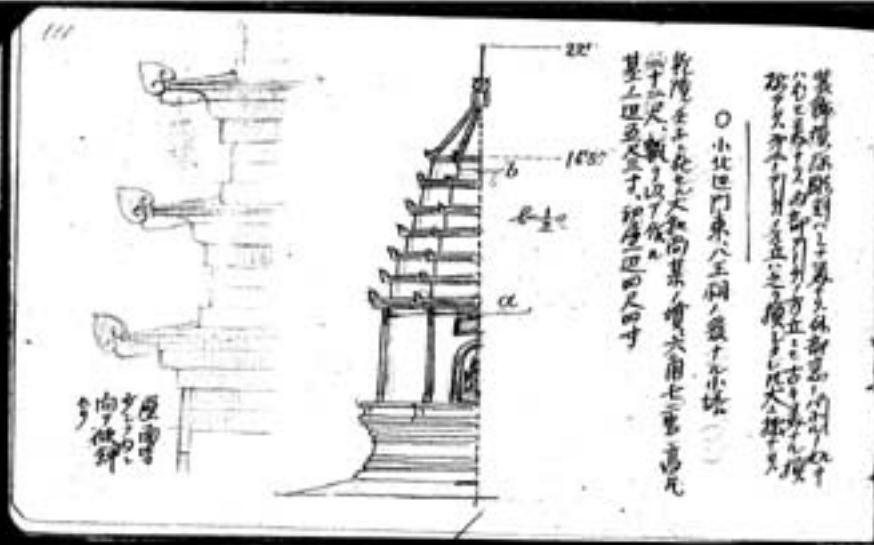
108

南清真寺



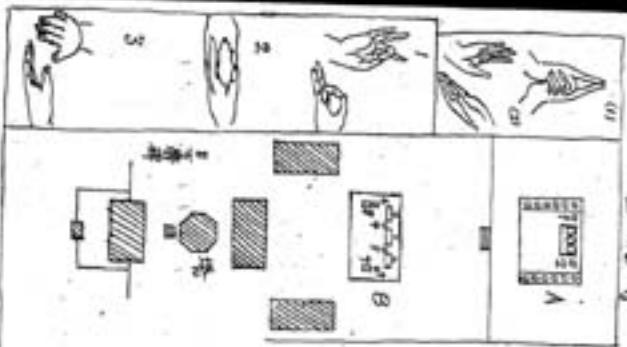
南清真寺... (Handwritten notes describing the temple's history and architectural features.)

此寺三千六百餘年... (Handwritten notes describing the temple's long history and significance.)



113

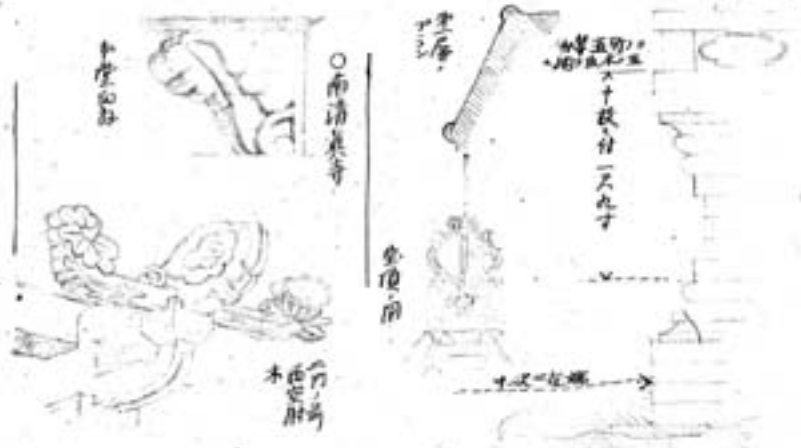
此圖說明白塔寺之構造。其塔身由下而上，分爲基壇、塔身、塔頂三部分。基壇爲八角形，塔身爲圓形，塔頂爲圓錐形。塔身之內部，有螺旋狀之樓梯，可供登塔之用。塔頂之內部，有佛龕，可供供奉佛像之用。塔身之外部，有佛龕，可供供奉佛像之用。塔身之外部，有佛龕，可供供奉佛像之用。



白塔寺

A-塔身
B-基壇
1-塔身之高度
2-塔身之直徑
3-塔身之厚度
4-塔身之坡度
5-塔身之坡度
6-塔身之坡度
7-塔身之坡度
8-塔身之坡度
9-塔身之坡度
10-塔身之坡度
11-塔身之坡度
12-塔身之坡度
13-塔身之坡度
14-塔身之坡度
15-塔身之坡度
16-塔身之坡度
17-塔身之坡度
18-塔身之坡度
19-塔身之坡度
20-塔身之坡度

112

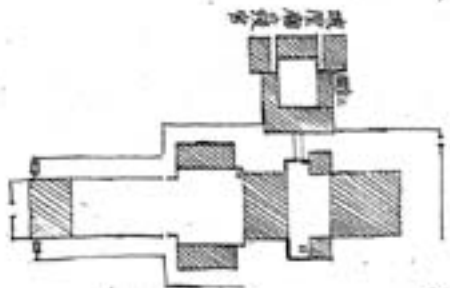


雨清美寺

五尺七寸
十尺二寸

塔頂

塔身



○城隍廟

○城隍廟
 此廟乃元正建立也今其廟又
 五湖廣地無不有現存者以爲最
 之類其形制亦不一而足其
 廟宇之宏麗則視之於他廟則
 尤爲壯麗其見之於世也
 ○元正
 廣州城隍廟之在表而
 廣州府城隍廟之在里而
 廣州府城隍廟之在表而
 廣州府城隍廟之在里而
 廣州府城隍廟之在表而
 廣州府城隍廟之在里而
 廣州府城隍廟之在表而
 廣州府城隍廟之在里而



五台山之圖 (雍正乾隆)

五台山之圖 (雍正乾隆)
 此圖乃雍正乾隆
 所繪之五台山圖也



五台山之圖 (雍正乾隆)

○五台山之圖
 此圖乃雍正乾隆
 所繪之五台山圖也
 五台山之圖 (雍正乾隆)
 此圖乃雍正乾隆
 所繪之五台山圖也

虎背状の
虎背格の
虎背格



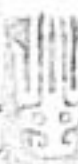
○問渡制景現存の格竹

一肥前 肥前守 肥前守 (肥前守)
一肥前 肥前守 肥前守 (肥前守)
一肥前 肥前守 肥前守 (肥前守)
一肥前 肥前守 肥前守 (肥前守)



等子

一漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)



一漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)
一漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)
一漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)
一漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)

○漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)
一漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)
一漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)



一漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)
一漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)
一漢代 線筒 線筒 (線筒) 線筒 (線筒)

119



周曼紋瓶

この像は、周の曼紋瓶に
見られる。その形は、
龍の一種である。

118



周盤雲紋

この紋は、周の盤雲紋に
見られる。その形は、
雲の一種である。

125



(2)



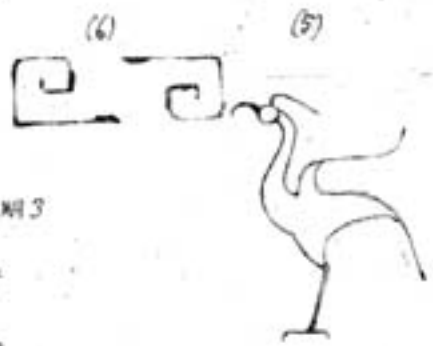
(1)



鳥の形を以て
其の形を以て
其の形を以て
其の形を以て
其の形を以て
其の形を以て
其の形を以て
其の形を以て
其の形を以て
其の形を以て

126

127

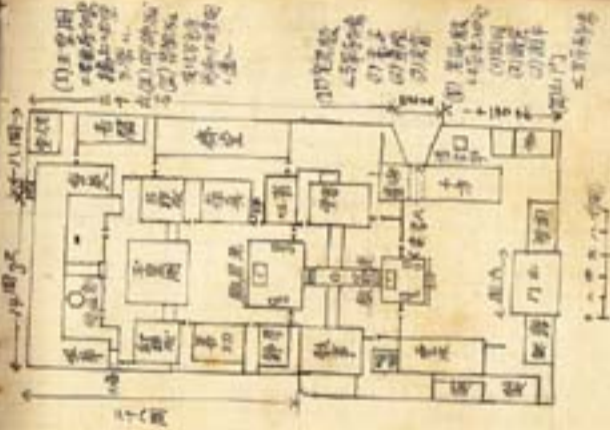


126

○太清宮

(通観)

東京、白雲觀・比叡宮、此宮は、元禄十一年に、延徳天皇、
御遷都、此宮に、御遷都、此宮に、御遷都、此宮に、御遷都、
此宮に、御遷都、此宮に、御遷都、此宮に、御遷都、此宮に、御遷都、



○茅葺殿
 光緒二十二年重修
 入母屋五間割、北、南、東、西、軒、及、南、西、方、五、間、割、
 性、度、々、有、又

○堂
 三間、單、正、の、御、堂

○玉皇閣
 五、方、二、層、御、堂

為、者、少、ク、シ、テ、正、方、者、ニ、近、シ、ク、モ、老、若、法、ハ、入、母、
 屋、ト、シ、テ、割、リ、テ、モ、可、ク、モ、亦、可、ク、モ、他、ノ、ニ、ツ、ハ、勿、レ、
 知、ル、也、ト、モ、モ、殿、ノ、表、面、ハ、大、四、角、ノ、形、而、モ、
 又、心、ノ、形、モ、亦、モ、レ、モ、ハ、殿、ノ、形、中、ノ、レ、モ、
 子、ハ、四、角、ノ、形、ト、限、レ、テ、
 殿、ノ、心、ノ、形、ヲ、長、方、形、ニ、ス、レ、バ、
 大、小、ノ、方、々、
 十、二、ノ、目、之、ノ、形、ト、モ、
 形、理、既、ニ、大、小、七、等、ノ、候、レ、シ、テ、八、等、ノ、候、レ、
 又、十、二、ノ、目、之、ノ、形、ト、モ、
 形、理、之、ト、モ、用、モ、レ、

○方
 四、角、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、
 内、外、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、

○四
 大、小、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、
 内、外、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、

○入
 母、屋、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、
 内、外、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、

○加
 母、屋、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、
 内、外、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、

○丹
 波、屋、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、
 内、外、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、

○丹
 波、屋、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、
 内、外、ノ、形、ト、モ、有、又、ハ、亦、有、

123

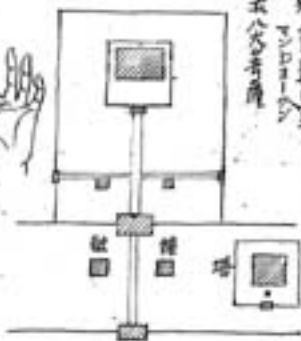


末

蓮花の式見たり西塔・塔の由替・たけりた



マシロイワ

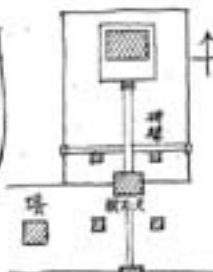


○東塔(蓮園及光孝)
 本殿七間五面單七層(西屋仙像)
 東チシマン
 中央チシマン
 西マンロイワ
 主太八火の音障

124

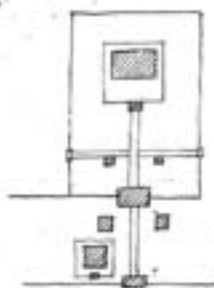


本塔下段見



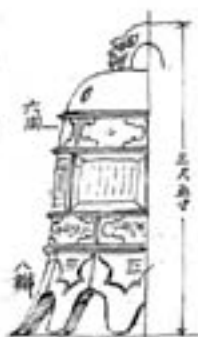
○西塔(蓮園及光孝)

本塔下段見
 塔心
 塔基
 塔
 塔心
 塔基
 塔
 塔心
 塔基
 塔



此は...
 一、...
 二、...
 三、...

○南門(鎌倉慶應寺)

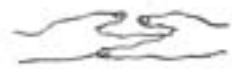


鎌倉慶應寺南門
 重二百餘

鐘一口(鎌倉慶應寺)

鎌倉四面を建てる慶應寺...
 左に二尊...
 東...
 南...
 西...
 北...
 雲東横云々

鎌倉慶應寺...
 雲東横云々



善長...
 相

乙式



白漆楊射木

④ 門
 門下礎石、左右礎石、四角礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、

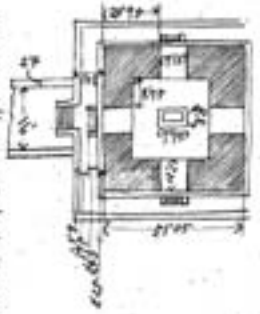


④ 門
 門下礎石、左右礎石、四角礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、



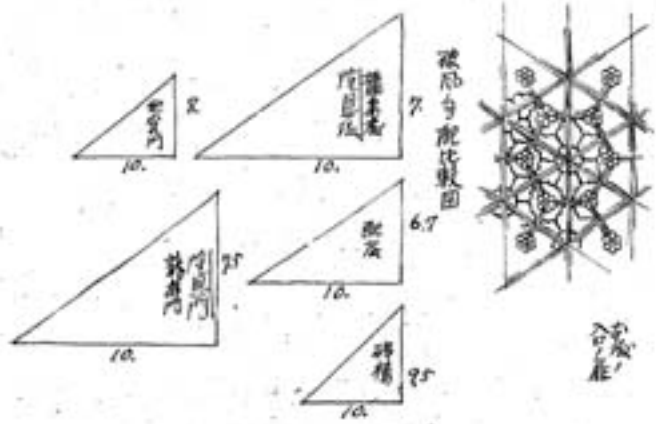
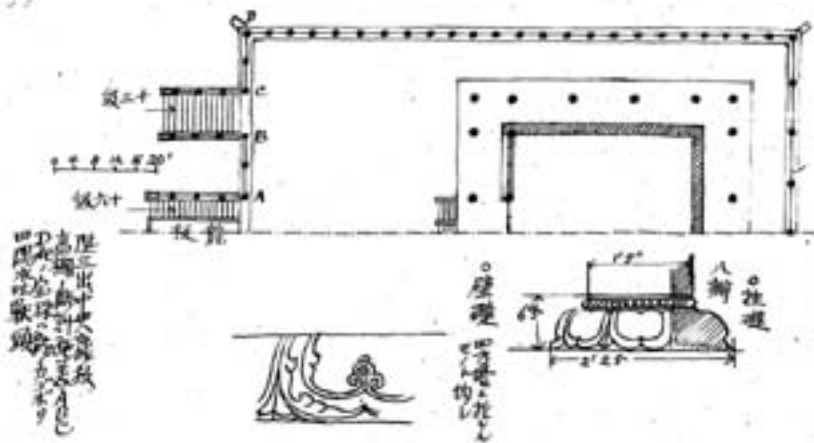
④ 門
 門下礎石、左右礎石、四角礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、

北殿之記



④ 門
 門下礎石、左右礎石、四角礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、

④ 門
 門下礎石、左右礎石、四角礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、
 礎石、礎石、礎石、礎石、



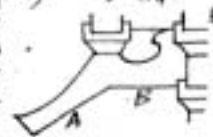
陸三出... 吉高... 四...
 柱礎... 壁礎... 柱礎... 壁礎...

土壇高六尺寸
星壇高尺五寸五分中央左右上下吹置道

四面中央より星壇を其境りて各々
左右に吹置道
柱は柱礎に依りて上下の間に
架木を以て之を繋ぎ
例へば星壇の例
星壇の吹置道中
吹置道は左右に置
置るべし



- 1 二 星壇高
- 2 三 星壇高
- 3 四 星壇高
- 4 五 星壇高
- 5 六 星壇高
- 6 七 星壇高
- 7 八 星壇高



財平形を以て火水の形
邊陽の形を以て火水の形
星壇の吹置道は星壇の吹置道
星壇の吹置道は星壇の吹置道
星壇の吹置道は星壇の吹置道
星壇の吹置道は星壇の吹置道



十
十
十

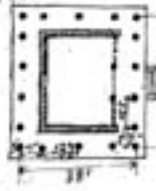
星壇の上より星壇の吹置道
星壇の上より星壇の吹置道
星壇の上より星壇の吹置道
星壇の上より星壇の吹置道
星壇の上より星壇の吹置道
星壇の上より星壇の吹置道

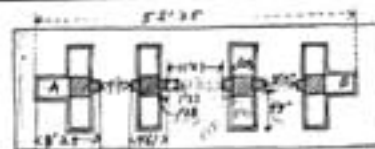


星壇の上より星壇の吹置道
星壇の上より星壇の吹置道
星壇の上より星壇の吹置道
星壇の上より星壇の吹置道
星壇の上より星壇の吹置道
星壇の上より星壇の吹置道

○東西段版

大分神宮の東西段版
大分神宮の東西段版
大分神宮の東西段版
大分神宮の東西段版
大分神宮の東西段版
大分神宮の東西段版





A+B-段、A-B-段

牛載、例、材料、の、量、の、多、少、は、
 厚、さ、の、差、に、依、り、決、ま、る、が、
 少、く、な、る、と、
 中、途、で、又、

出

出、発、十、六、時、間、附、生、路、中、
 陸、軍、通、信、高、橋、三、郎

米、田、隆、平、三、十、日、上、野、他、安、白、飯

月、名、村、区、通、三、日、十、四、番、他、紀、伊、半、島、
 等、地、古、蹟、等、所

栗、原、和、清、未

島、尻、龍、宮、寺

神、岡、寺、古、瓦、三、十、四、番、路
 神、尾、大、藏、寺、三、中、路
 日、智、寺、古、瓦、相、良、攝、武



○滿州建築調查報告目次

第一章 一般、概論

第二章 仙舟建築

第三章 回教建築

第四章 回教建築

第五章 回教建築

第六章 回教建築

第七章 回教建築

第八章 回教建築

第九章 回教建築

第十章 回教建築

第十一章 回教建築

第十二章 回教建築

第十三章 回教建築

第十四章 回教建築

第十五章 回教建築

第十六章 回教建築

第十七章 回教建築

第十八章 回教建築

第十九章 回教建築

第二十章 回教建築

第二十一章 回教建築

第二十二章 回教建築

第二十三章 回教建築

第二十四章 回教建築

第二十五章 回教建築

第二十六章 回教建築

第二十七章 回教建築

第二十八章 回教建築

第二十九章 回教建築

第三十章 回教建築

第三十一章 回教建築

第三十二章 回教建築

第三十三章 回教建築

第三十四章 回教建築

第三十五章 回教建築

第三十六章 回教建築

第三十七章 回教建築

第三十八章 回教建築

第三十九章 回教建築

第四十章 回教建築

第四十一章 回教建築

第四十二章 回教建築

第四十三章 回教建築

第四十四章 回教建築

日八月十三日 至九月二十六日

月	日	事項	日	事項	日	事項
8	13	① 水	2	① 水	23	○
8	14	② 水	3	② 水	24	○
8	15	③ 水	4	③ 水	25	○
8	16	④ 水	5	④ 水	26	○
8	17	⑤ 水	6	⑤ 水		
8	18	⑥ 水	7	⑥ 水		
8	19	⑦ 水	8	⑦ 水		
8	20	⑧ 水	9	⑧ 水		
8	21	⑨ 水	10	⑨ 水		
8	22	⑩ 水	11	⑩ 水		
8	23	⑪ 水	12	⑪ 水		
8	24	⑫ 水	13	⑫ 水		
8	25	⑬ 水	14	⑬ 水		
8	26	⑭ 水	15	⑭ 水		
8	27	⑮ 水	16	⑮ 水		
8	28	⑯ 水	17	⑯ 水		
8	29	⑰ 水	18	⑰ 水		
8	30	⑱ 水	19	⑱ 水		
8	31	⑲ 水	20	⑲ 水		
9	1	⑳ 水	21	⑳ 水		
			22	㉑ 水		

日九月廿七日 至十一月廿三日

月	日	事項	日	事項	日	事項
9	27	① 水	10	① 水	10	① 水
9	28	② 水	11	② 水	11	② 水
9	29	③ 水	12	③ 水	12	③ 水
9	30	④ 水	13	④ 水	13	④ 水
10	1	⑤ 水	14	⑤ 水	14	⑤ 水
10	2	⑥ 水	15	⑥ 水	15	⑥ 水
10	3	⑦ 水	16	⑦ 水	16	⑦ 水
10	4	⑧ 水	17	⑧ 水	17	⑧ 水
10	5	⑨ 水	18	⑨ 水	18	⑨ 水
10	6	⑩ 水	19	⑩ 水	19	⑩ 水
10	7	⑪ 水	20	⑪ 水	20	⑪ 水
10	8	⑫ 水	21	⑫ 水	21	⑫ 水
10	9	⑬ 水	22	⑬ 水	22	⑬ 水
10	10	⑭ 水	23	⑭ 水	23	⑭ 水
10	11	⑮ 水	24	⑮ 水	24	⑮ 水
10	12	⑯ 水	25	⑯ 水	25	⑯ 水
10	13	⑰ 水	26	⑰ 水	26	⑰ 水
10	14	⑱ 水	27	⑱ 水	27	⑱ 水
10	15	⑲ 水	28	⑲ 水	28	⑲ 水
10	16	㉑ 水	29	㉑ 水	29	㉑ 水
10	17	㉒ 水	30	㉒ 水	30	㉒ 水
10	18	㉓ 水	31	㉓ 水	31	㉓ 水
10	19	㉔ 水				
10	20	㉕ 水				
10	21	㉖ 水				
10	22	㉗ 水				
10	23	㉘ 水				
10	24	㉙ 水				
10	25	㉚ 水				
10	26	㉛ 水				
10	27	㉜ 水				
10	28	㉝ 水				
10	29	㉞ 水				
10	30	㉟ 水				
10	31	㊱ 水				

月九	月八	月七	月六	月五	月四	月三	月二	月一	月十	月九	月八	月七	月六	月五	月四	月三	月二	月一	月十	月九	月八	月七	月六	月五	月四	月三	月二	月一
...
...

月四	月三	月二	月一	月十	月九	月八	月七	月六	月五	月四	月三	月二	月一	月十	月九	月八	月七	月六	月五	月四	月三	月二	月一	月十	月九	月八	月七	月六	月五	月四	月三	月二	月一	
...
...

西洋建築史清義日録

その通り、大いなる遊戯者としての姿、
演習に、全て條件、不利なる、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、

今、この遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、

12. 何れも、その遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、

13. 今、この遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、

14. 今、この遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、

15. 今、この遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、
その中、大いなる遊戯者としての姿、

有子婦)多食不食... 今日本江... 運送法... 30. 今日本江...

1. 昨日午後十時より午後五時まで京城は出入するものと行はず
2. 探甲は探甲探甲等と行可する件(空知等田領也)
3. 探甲は探甲探甲等と行可する件
4. 探甲は探甲探甲等と行可する件

30. 今日本江... 運送法... 探甲は探甲探甲等と行可する件... 探甲は探甲探甲等と行可する件...

運送法... 探甲は探甲探甲等と行可する件... 探甲は探甲探甲等と行可する件...

31. 探甲は探甲探甲等と行可する件... 探甲は探甲探甲等と行可する件... 探甲は探甲探甲等と行可する件...

24. 午前自味香の寓所、早生ス、今日次、所地、水邊、エ、エ、一、陸、見、報、函
 25. 午後復原帝廟の所、家、對、敷、則、留、工、等、大、白、白、輝、直、路、上、小、不、受
 26. 早朝、起、時、於、其、所、高、高、至、碑、湖、直、上、一、時、新、代、不、詳、也、の、新、代、其、元
 27. 今日、石、碑、代、敷、の、中、村、此、夜、の、多、く、文、張、の、地、中、阿、家、ノ、力、借、り、つ、く、ら、し、
 28. 今日、月、曜、五、日、と、進、行、一、次、し、分、高、出、出、司、會、部、と、重、つ、こ、西、中、の、儀、給、也、
 29. 今日、月、曜、五、日、と、進、行、一、次、し、分、高、出、出、司、會、部、と、重、つ、こ、西、中、の、儀、給、也、

- 朝、主、長、と、最、大、陪、也、所、で、最、大、人、和、と、云、ふ、是、の、湖、平、高、の、第、二、道、中、西、門、
 25. 午後、自、味、香、の、寓、所、早、生、ス、今日、次、所、地、水、邊、エ、エ、一、陸、見、報、函
 26. 早朝、起、時、於、其、所、高、高、至、碑、湖、直、上、一、時、新、代、不、詳、也、の、新、代、其、元
 27. 今日、月、曜、五、日、と、進、行、一、次、し、分、高、出、出、司、會、部、と、重、つ、こ、西、中、の、儀、給、也、
 28. 今日、月、曜、五、日、と、進、行、一、次、し、分、高、出、出、司、會、部、と、重、つ、こ、西、中、の、儀、給、也、
 29. 今日、月、曜、五、日、と、進、行、一、次、し、分、高、出、出、司、會、部、と、重、つ、こ、西、中、の、儀、給、也、

14



七割

7/12/17
7
10
17



1/10
2/10
3/10
4/10
5/10
6/10
7/10
8/10
9/10
10/10



七葉



六葉



1015 x 20

2090.3

6/20000/342.15

820 3/390/9

10033
383

清國滿洲

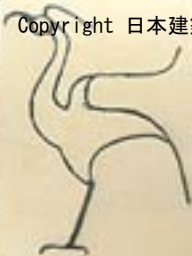
第十四卷

滿洲

第十四冊

自明治三十八年出版

Copyright 日本建築



Copyright 日本建



Copyright 日本建築



Copyright 日本建築



Copyright 日本建



Copyright 日本建築学会



Copyright 日本建築



Copyright 日本建築



Copyright 日本建築学会



Copyright 日本建築



Copyright 日本建築学会



Copyright 日本建築学会

八回教

彼天

景

Copyright 日本建築学会



Copyright 日本建築学会

467